



# 三中だより

中野区立第三中学校

第2号

平成29年5月9日発行

## 落としたものが戻ってくる優しい国

校長 齊藤 久

オリンピック・パラリンピック2020東京大会の開催が決まったときに日本がどんなに素晴らしい国であるかのエピソードの1つに、落とした財布が戻ってくる優しい国として紹介されました。

新年度が始まり生徒に新しい生徒手帳が配布されました。ところが登下校中に生徒手帳を落としてしまった生徒がいました。生徒は担任に落としてしまったことを報告しました。気を落としている生徒に担任は、親切な人が届けてくれるかも知れないので、再発行するのはもう少し待ってからにしようと言ったそうです。それから数日後、嬉しいニュースが校長室に届きました。紛失した生徒手帳が担任の先生が言ったように学校に届けられましたのです。心温まるご親切に皆で感動いたしました。

近年、国際化が進む中で日本人のアイデンティティーの確立について取り上げられることがあります。アイデンティティーとは、イメージの明確性や他者から識別するための安定性を示すという意味だそうです。日本人としてのアイデンティティーと言われれば、世界の人々から見ると新渡戸稲造の「武士道精神」とか聖徳太子の「和をもって尊し」のイメージがあるようです。この中には、礼儀正しいが自分の意見を思った通りに発言するよりも周りの雰囲気を読んでから発言するなどのマイナスのイメージが残念ながら浮かびます。

日本人として世界に誇れるアイデンティティーの1つに道德観念を備わっていることがあげられています。落とした財布が戻ることだけではなく、震災があつて困っている人がたくさんいる時でさえ、支援物資の前に整然と物静かに列をつくって並んでいる姿を見て、外国人の報道関係者が感動したエピソードは有名な話です。日本人のアイデンティティーの1つに困っている人に優しくできることは、人として生きていく上で最も大切なことだと思います。

三中がいよいよ最後の一年となりました。この一年間で有終の美を飾り、歴史と伝統に幕を下します。昭和の時代より帰国生徒を受け入れてきた三中だからこそできる、日本人のアイデンティティーを備えた人材を育て、世界に誇れる日本人を育成するために教職員一同、力を合わせ最後まで努力してまいります。

最後に統合に向けてのお願いです。現在、統合新校（中野区立中野東中学校）の校章のデザインと校歌を募集しています。デザインはオリジナルのもので未発表のものです。校歌の歌詞は校歌に入れてほしい言葉やフレーズだけでも結構です。募集用紙は三中の昇降口に事務室前にありますので、アイデアが浮かんだ方はぜひお願いします。

## 今後の主な予定

5月 8日（月）運動会練習始

5月13日（土）学校公開 部活動保護者会

5月20日（土）運動会（雨天時授業）

5月22日（月）振替休業日

5月23日（火）運動会予備日

6月10日（土）学校公開・セーフティ教室

6月14日（水）定期考査（～16日）

6月19日（月）水泳指導始

## 小中連携教育

教務主任 鎌形 孝二

中野区教育委員会の方針の重点項目に小中連携教育の充実があり、本校もその方針に沿って小中連携教育を推進しております。今年度も連携校である桃園第二小学校、白桜小学校、準連携校である塔山小学校、谷戸小学校の児童と本校の生徒を9年間見通して教科指導・生活指導を行っていきます。

主な取り組みとして、以下の3点が挙げられます。

- ①オープンキャンパス…小学生に対し中学校生活の様子を示すことで、中学生としての自覚を持つ機会。
- ②乗り入れ指導…小中の教員同士が互に行き来し、授業を実施することで9年間の見通しを持った教育を行う基盤をつくる機会。
- ③小中連携教育協議会…小中の教員同士が集まり、授業見学などを通して9年間の見通しを持った教育の課題について話し合いを持つ機会。

特に6月9日と9月28日に行われるオープンキャンパスの際には、桃園第二小学校と白桜小学校の6年生の児童が三中の授業や部活動の様子を見に来ます。普段の三中の素晴らしい生徒の姿を小学生に見せることで、小学生に良い影響を与え、憧れの存在になってくれること期待しています。

## 地域と歩む三中生

生活指導主任 高橋 信幸

今年度は、84名の新生が入学し久しぶりの3学級体制となりました。また、海外帰国生も6名迎え、平成29年度をスタートしました。生徒達は落ち着いた雰囲気です。1年生は、1ヶ月が過ぎ、移動教室、部活動の仮入部などを経験し、学校生活に少しずつ慣れてきました。2年生は上級生として部活動や生徒会活動で先輩らしさが出てきており、成長を感じさせてくれます。3年生は最上級生となり、学校の中心としていろいろな場面で活躍しています。

中学生となると、社会人として責任ある行動が求められる場面が増えてきます。学校という社会でその場に応じた行動や「きまり」が守れるようになっていってほしいと願い、指導しています。中学校は地域社会とのつながりが深く、また、生徒も地域の一員として生活しています。社会人として地域生活を送るうえで必要なものを身につけられるよう学校という集団生活を通して学んでほしいです。ご家庭においてもご理解とご協力をお願いいたします。

中学生の時期は学習や友人関係などいろいろな面で悩みがある時期です。第三中学校では、スクールカウンセラーを中心として教育相談や面談を行って、より充実した学校生活を送れるようにしています。

保護者の皆様、心配な事がありましたら、どんなことでも遠慮なく相談してください。

第三中学校、最後の1年がスタートしました。生徒達は、三中生として自信と誇りをもって生活し、地域の方々に感謝の気持ちを忘れず、ともに歩み、三中の歴史にその「軌跡」を残せるようにしましょう。

## キャリア教育とは

進路指導主任 山本 裕樹

キャリア教育とは、望ましい職業観・勤労観および職業に関する知識や技能を身につけさせると共に、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる教育のことです。簡単に言えば、将来、自分はどんな職業に就こうと思うのか、そのための自分の道をどうするのか考えることです。キャリア教育の一つが、中学校卒業後の進路を決めるための学習になります。第三中学校でも様々な形で1年生よりキャリア教育を進めています。

一方、気になる受験関係です。都立高校では英語の英作文で出題形式が若干変わったようですが、他は概ね例年通りだったようです。基礎・基本がどれくらい定着しているかが試される問題が多く出題されていました。1年生のうちから、基礎的・基本的な内容の定着を図っていくことが重要です。そのために大切なことは次の2つです。

① 得意なこと好きなことはもちろん、苦手なことにも積極的に粘り強く取り組むこと。

② 学校の授業をもとに家庭学習に取り組み、学力を身につけるという学習習慣を確立すること。

毎日の家庭学習は本当に重要です。「1日1時間」を一年間続けたら、一年間で365時間です。中学校卒業まで続ければ1000時間以上の積み重ねになります。十分に基礎・基本を定着させられます。

## 中学生としての第一歩

1学年主任 土屋 美樹

1年生は「お互いの良さを認め合える学年」「あいさつ、返事、反応がよくできる学年」「誠実な心遣いと気配りができる学年」を目指しています。心とコミュニケーション力を育てることに重点を置きました。人が生きていく上で習得したい大切なスキルです。小さな社会（学校生活）の中で、体験を通し身につけることで、自然な振る舞いができるよう願いを込めました。スローガンは「ひとりはお互いのために、みんなはひとりのために」と「良いところ探し」です。

新しい出会いの入学式では緊張した面持ちでしたが、少しずつ学校生活にも慣れてきました。素直で前向きな気持ちで頑張っています。また、山中湖移動教室後は、男女ともにお互いにあだ名で呼び合う姿が見られるほど仲良くなり、お互いに「良いことは良い」「悪いことは悪い」と声をかけ合うことができるようになりました。今後も生徒同士で自浄したり高めあったりできる学年を目指していきます。

生徒たちのたくさんの夢や希望を3年間かけて一緒に大事に育てたいと思っています。

## 統合に向け、どんな時もぶれない2年生になろう！

2学年主任 高橋 美保子

始業式の朝、ドキドキしながらクラス分けの紙をもらい「2年生」として新しい生活が始まりました。部活動で「先輩」と呼ばれ、ようやく実感がわいてきたようです。

さて、今年度の2年生には3つの目標があります。①中堅学年として3年生を支え、1年生をリードする。②開校70周年&第三中学校最後の2年生として充実した生活をする。③来年四月、統合新校の第1回3年生としてきちんとしたスタートをする。・・・の3つです。

どれも簡単に達成できる目標ではありませんが行事や授業に着実に取り組んでいくことで近づいていくことができると考えています。大切なのは「個人が集団を支え、集団が個人を支えている」ということです。お互いの良いところを認め合い、違う個性の生徒が協力することが大切です。また、うまくいかないこともあるかもしれませんがこういう時こそ成長のチャンスととらえましょう。

授業も行事も、1年生でやり方は学びました。今年は勇気をもって自分たちの力でチャレンジしていきましょう。

## 最高学年として

3学年主任 本川 みどり

学校生活のさまざまな場面で、学校の中心となる3年生。委員会や部活動、行事では、下級生をリードして活動しなければいけない存在です。それぞれの立場で自分の役割を果たし「三中の顔」として行動してくれることを願っています。

また今年度は、3年生が避けて通ることができない進路決定も待っています。自分を知り、その先にある自分の未来の生き方を模索し、自分にとって最適な進路選択をしてほしいと思います。

この1年の間には、困難なことにぶつかる場面もあるでしょう。そんなときには仲間と支え合い、励まし合い、全員で壁を乗り越える。そんな学年集団になってほしいと考えています。

今年度で70年という長い歴史の幕を閉じる3中。その「最後の卒業生」として、有終の美をかざれる学年を目指します。

- ・A組学級目標…「猪突猛進」 ～我ら夢を追う者～
  - ・B組学級目標…「日進月歩」 ～日々笑い 進歩を続け 月追うごとに 歩み合わせる～
- 1年間、どうぞよろしくお願いします。

## 基本的生活習慣の定着と自己管理能力の育成を目指して

保健主任 中角 友紀

今年度がスタートし、早1か月が経ちました。体調を崩している生徒や慣れない環境や緊張感から疲

れがたまっている生徒もおりますが、中学生として、上級生として気持ち新たに頑張る姿が見られます。保健室では、新しいクラスの様子を話しに来たり、「〇cm伸びた!」、「伸びてない!」と身長測定に来たり、微笑ましい様子も見受けられます。

先月より健康診断が始まっていますが、生徒たちには健康診断や健康教育等を通して、自己の心身に関心を持ち、望ましい基本的な生活習慣を身につけ、将来に通じる自己管理能力を高めてもらいたいと思います。

充実した学校生活を送る上で、心身の健康は土台となります。中学生は心身ともにより大きく成長する時期です。時には不安や悩みを抱えることもあるかと思えます。学校でも基本的な生活習慣を整えることを基本に、心身の健康のサポートをしていきますが、ご家庭でもご理解・ご協力いただきたいと思います。

保健関係の連絡、情報に関しては、保健だよりをご覧ください。今年度も、ご家庭・関係機関・学校と協力しながら学校保健活動を進めてまいります。ご心配なこと、お困りのこと等がありましたら学校までご連絡ください。また、9月21日(木)には学校保健委員会を予定しています。保護者・学校医・教職員で生徒たちの健康について考える機会ですので、ぜひご参加ください。

## 特別支援教育

特別支援教育コーディネーター 中角 友紀

平成19年度に全ての学校における特別支援教育が本格的に開始され、10年が経とうとしています。障害から生じる「鞆の中が整理できない」、「友達とのコミュニケーションがうまくいかない」等といった生活面のつまずきや「特定の領域のテストで点数が上がらない」、「文字をよく書き間違える」等といった学習面のつまずき、困難さについて、思春期のこの時期、なぜみんなにはできて自分は同じようにできないのか理由がわからないまま困っている生徒もいます。特別支援教育は、その生徒に合わせた苦手な部分をサポートしていきます。

サポートについては、環境の工夫や細やかな声掛け等、生徒一人ひとりサポートの内容や方法も違えば、一人の生徒であっても成長に伴って状況が変わるにつれてサポートも変わっていきます。生徒にあったよりよい支援について、保護者の方にお話を伺いながら、一緒に考えていきたいと思えます。

また、三中ではスクールカウンセラー(火曜日)や心の相談員(月・水・木曜日)が勤務しており、保護者の方も相談ができますので、お気軽に学校までお問い合わせください。

## 共存・共生

副校長 三保谷 浩貴

本校では昭和49年の海外子女教育協力研究校の指定を背景に、平成13年から国際理解教育の視点に立ち、総合的な学習の時間のテーマとして「共存 共生」を掲げ、社会に主体的に関わることでできる生徒の育成に取り組んできました。昨年度はその集大成として、「グローバル人材を育成する国際理解教育の実践」を研究主題とした研究発表をおこないました。今年度も、様々な教育活動で、「共存・共生」の精神を育んでいきたいと思えます。ここでは「共存・共生」を感じる詩を紹介いたします。

わたしと小鳥とすずと

わたしが両手をひろげても

お空はちつとも飛べないが

とべる小鳥はわたしのよう

地べたをはやくは走れない。

わたしがからだをゆすつても

きれいな音はでないけど、

あの鳴るすずはわたしのよう

たくさんうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし

みんなちがつて、みんないい。

わたしと小鳥とすずと

金子みすゞ童謡集より

わたしと小鳥とすずと  
金子みすゞ童謡集より